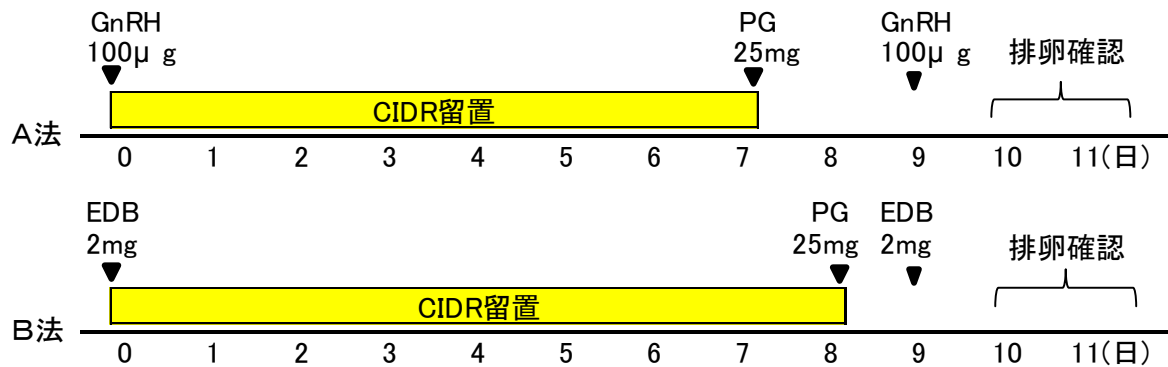


乳牛の性選別精液利用に向けた 定時授精プログラム

牛の性選別凍結精液は、精子数が少なく活力が弱いとされており、通常の凍結精液以上に適期に人工授精する必要があります。しかし、泌乳牛では発情徴候が不明瞭なことが多く、適期授精が難しいことがあります。そこで、ホルモン剤処理後一定時間で授精できる定時授精プログラムを組み立てました。

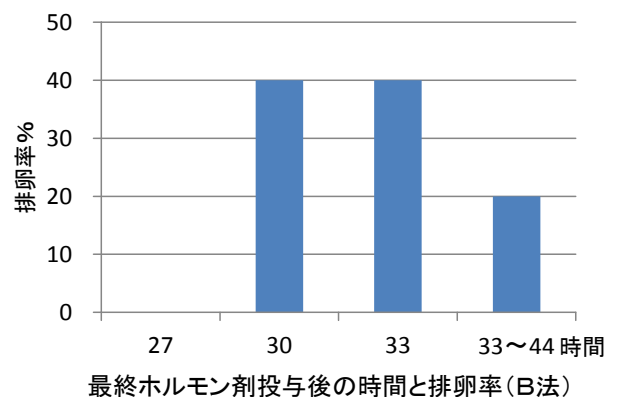
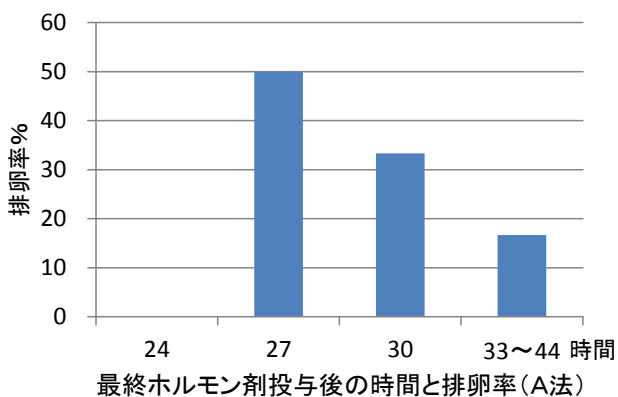
2つの定時授精プログラムについて排卵時間を調査した結果、両方法とも6時間の範囲内に8割以上の排卵を集中させることができました。

これらのプログラムを活用することにより、発情徴候が不明瞭な乳牛の適期授精や、計画的な人工授精が可能になります。



GnRH: 性腺刺激ホルモン放出ホルモン PG: プロスタグランジンF₂ α
 CIDR: 腔内留置型黄体ホルモン EDB: 発情ホルモン CIDR以外は筋肉内注射

発情周期の任意な時期に CIDR の腔内留置及びホルモン剤投与を行い、最後のホルモン剤投与の24時間後から3時間間隔で排卵確認を実施。



最後のホルモン剤投与後、A法では25~30時間に83.3%が排卵し、B法では28~33時間に80.0%が排卵。